

# 北上川分流施設群 (2004年 土木学会選奨土木遺産)

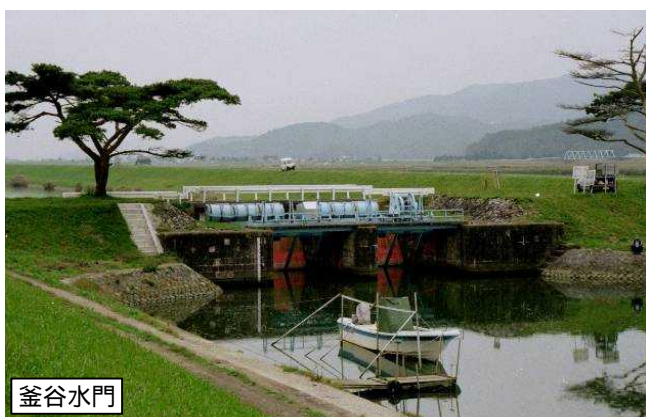
終戦までに行われた我が国における大規模分水治水工事の一つである北上川第一期改修工事で建設された施設群。各堰、水門にみられるゲート形式は、我が国における分水堰技術の黎明期において選定されたもので、他に類例がない希少なもの。中でも重要で分水量を調節している鴛波と脇谷の両洗堰は老朽化のための改築計画が進行する中、歴史的な重要性が確認され現況保存されることが決まった。その結果、分流地点一帯を河川歴史公園として整備することになり、その構想と計画に地元住民の参加を得て進行しつつある。



鴛波洗堰(下流側)



脇谷洗堰と閘門(上流側)



釜谷水門



福地水門

鴛波締切堤	:昭和6年4月竣工、延長762m
鴛波洗堰	:昭和7年3月竣工、オフィス部(18連)+越流部
脇谷洗堰	:昭和7年3月竣工、オフィス部(6連、内部にラジアートあり)+越流部
脇谷閘門	:昭和6年12月竣工、鉄製曳上復葉式2組
脇谷水門・放水路	:昭和6年12月竣工、鉄製曳上復葉式4門、隧道2連
福地水門(旧福地閘門)	:昭和5年3月竣工、2段式ローラーゲート+カーテンウォール付オフィス式+ラジアート(2門)
釜谷水門:	:昭和3年12月竣工、バランスドゲート(2門)
月浜第一水門	:昭和3年8月竣工、バランスドゲート(4門)
月浜第二水門	:昭和3年8月竣工、バランスドゲート(1門)